

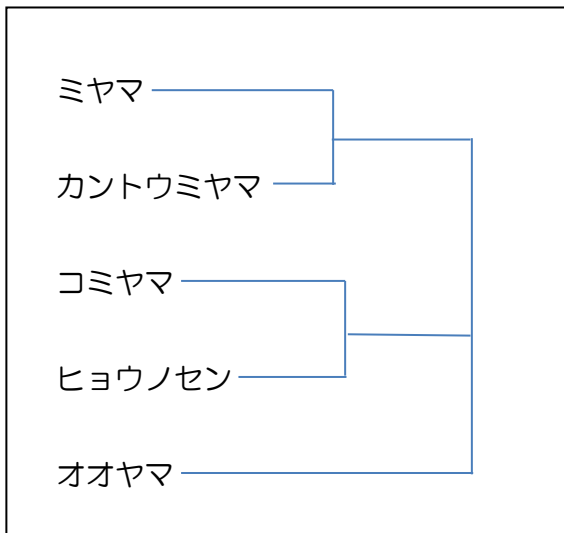
<日本産カタバミ属植物の系統解析>

日本には、白い花を咲かせる *Acetosellae* 節のカタバミ属植物が、3 種 2 変種自生していると言われています。

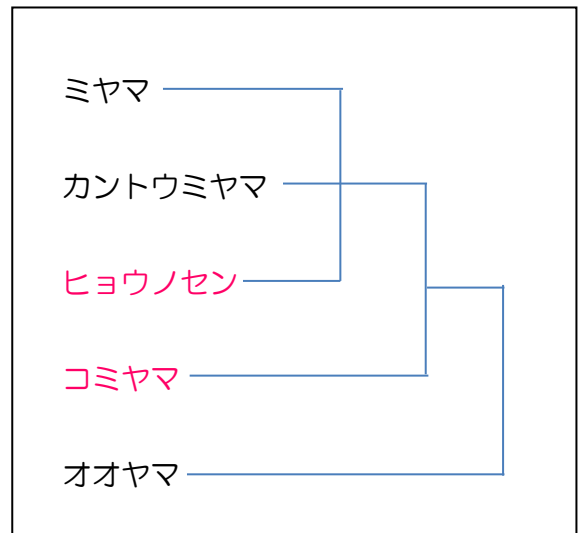
和名	学名	分布
ミヤマカタバミ	<i>Oxalis griffithii</i>	本州、四国、九州の山地の林床
カントウミヤマカタバミ	<i>Oxalis griffithii</i> var. <i>kantoensis</i>	関東南西部～東海の山地の林床
コミヤマカタバミ	<i>Oxalis acetosella</i>	北海道、本州、四国、九州の山地帯～亜高山帯の針葉樹の林床
ヒョウノセンカタバミ	<i>Oxalis acetosella</i> var. <i>longicapsula</i>	北海道、本州の日本海側のブナ林の林床
オオヤマカタバミ	<i>Oxalis obtriangulata</i>	本州中部、四国、九州の山地の林床

これらは寺尾（1979）以降、分類学的研究がなされてきませんでした。そこで、2000 年頃以降に系統進化学の手法として広く用いられるようになった DNA 解析によって、これらの分類群の系統関係を明らかにしました。

【これまで考えられてきた系統関係】



【新しく明らかになった系統関係】



これまでコミヤマとヒョウノセン、ミヤマとカントウミヤマが互いに近縁であるとされてきましたが、本研究からはコミヤマが独立し、ヒョウノセンはミヤマおよびカントウミヤマにより近縁であることが示されました。

若井(2014年度横浜国立大学修士論文)では、*Oxalis* 属における *Acetosellae* 節の系統的位置づけ、*Acetosellae* 節内の系統関係の他に、葉や花、蒴果の形態に基づく分類と、日本各地の形態が曖昧な集団を用いた解析を行っています。

***修士論文要旨** (若井美里, 2014年度修士論文「日本産 *Oxalis* 属 *Acetosella* 節 3種 2変種の系統と分類学的研究」)